

災害対策は、防災グッズを買うことだけじゃない！

いつもの暮らしを見直して「もしも」に備える

新しい防災フェーズフリー、実践してみたい 83.0%

シリーズ「みんなのSDGs」

9月1日は防災の日。台風、地震、豪雨・豪雪……。私たちは、つねに自然災害のリスクと隣り合わせでくらしています。そこで今回は、みんなの防災意識を調査。もしものときに備えて用意している防災用品や、どんな基準で防災用品を選んでいるか調べてみると、「日常生活でも使えるものを買いたい」という気持ちが強いことが判明。また、新しい防災として話題の「フェーズフリー」についてもリサーチ。認知度は低いものの、「日常と非常時を分けない」という考え方には多くの人が共感。実践してみたいという声も数多く集まりました。

【ダイジェスト】

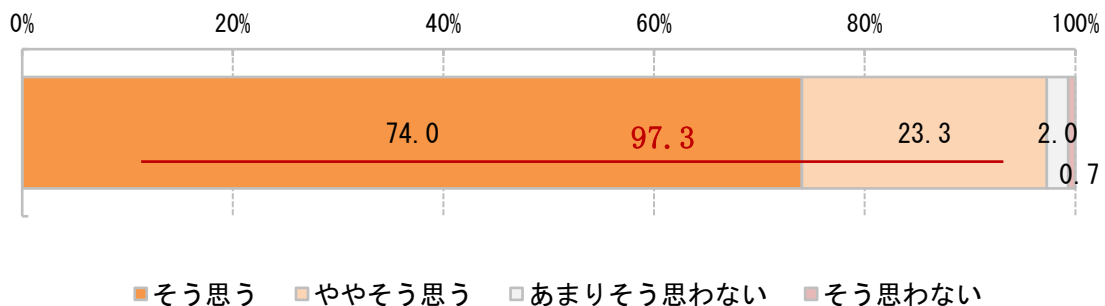
日常と非常時を分けない、新しい防災の考え方が「フェーズフリー」

防災用品は「日常にも役に立つものを買いたい」のが本音！

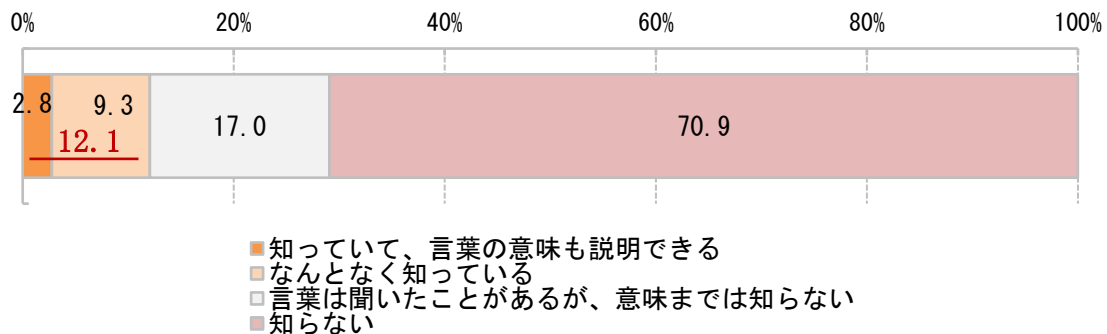
「いつも」の暮らしを工夫するだけで、防災力が高まる

[Q] 近年、地震、大雨や台風などによる水害など、災害が増えていると感じますか。

(n=1586)



[Q]災害への備えとして、「フェーズフリー」が注目されています。
この言葉を知っていますか。
(n=1586)

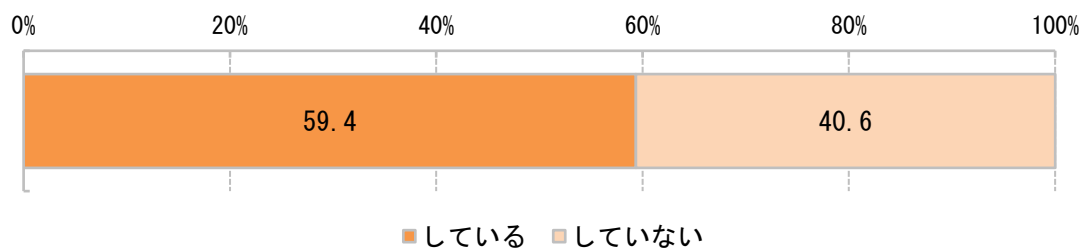


日常と非常時を分けない考え方が「フェーズフリー」

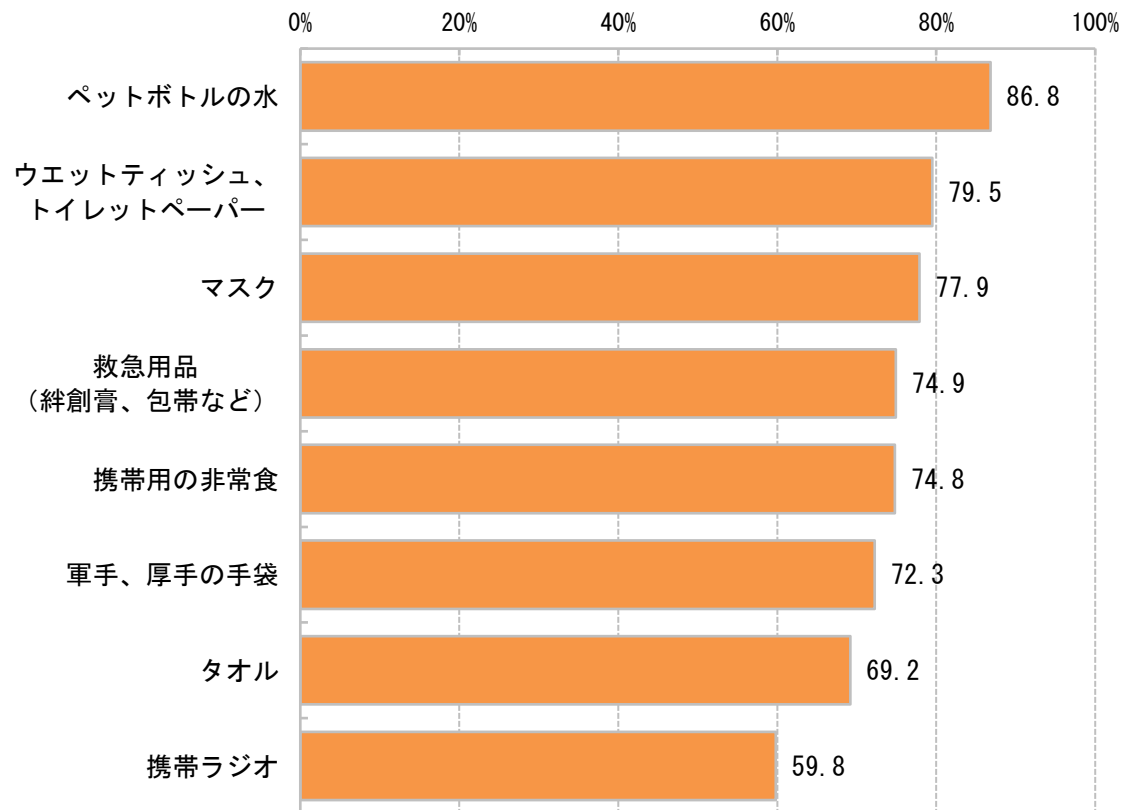
国土交通省の調査では、温暖化の影響により、21世紀の豪雨の発生頻度は20世紀の約3倍に増える
と予測されています。読者の97.3%も「近年、自然災害が増えていると感じる」と回答し、かなりの人が危険
を感じていることがわかります。しかし、大きな災害後に高まる防災意識は、時間がたつと薄れてしまいがち。
その一因は、日常生活のなかでは、実際に災害が起きた状況をイメージしにくいからと考えられます。

そんな「気持ちのズレ」を埋める考えとして注目されているのが、フェーズフリー。認知度は「言葉の意味
まで説明できる」、「なんとなく知っている」という回答を合わせて12.1%とまだまだ低めですが、新しい防災
の概念として広がりつつあるキーワードです。フェーズフリー協会代表の佐藤唯行さんによると、「フェーズ
フリーとは、『日常』と『非常時』（災害時）のくらしを分けることをやめてみよう、という考え。非常時のた
めに何かを備えるのではなく、ふだんから使用しているものが『もしも』のときに私たちの命や生活を守っ
てくれる。そんなくらしをめざしています」。

[Q]防災グッズや非常用持ち出し品を、自宅に準備していますか。
(n=1585)



[Q]防災グッズや、非常用持ち出し品として、
用意しているものをお選びください。
(n=941)

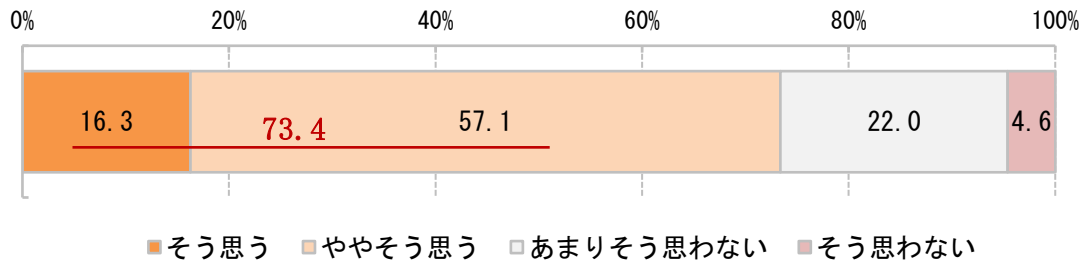


防災用品は「日常にも役に立つものを買いたい」のが本音！

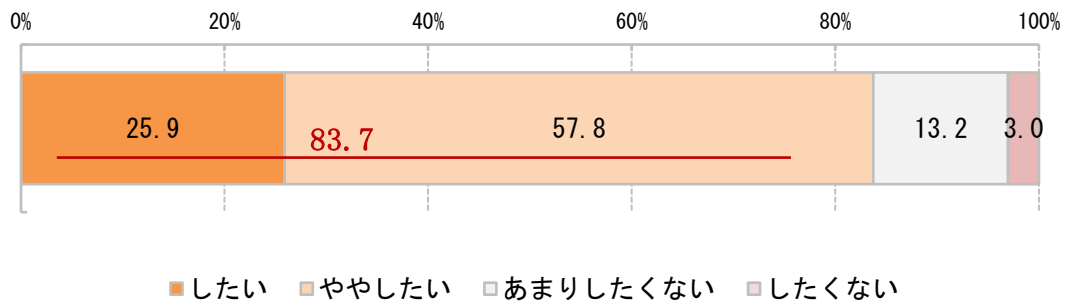
ふだんの生活で「防災を意識している」と回答した人は74.3%。しかし、実際には防災グッズを用意していない人は40.6%と、かなりの割合であることが判明。用意していない理由の上位は、「つい先延ばしにしてしまう」70.2%、「何をすればいいかわからない」28.7%など。日々忙しく過ごしていると、災害は「非常時」の遠いことに感じられて、つつい備えが後回しになってしまうのかもしれない。

また、防災用品を選ぶときの基準を探っていくと、「日常にも役立つ防災用品を買いたい」という意見が目立ちました。その背景には、「ふだん使わないものに、あまりお金をかけたくない」(30代・パート)、「日常的に利用できるとうれしい」(50代・専業主婦)、「新たに購入するのは避けたい」(40代・フルタイム)など、「防災のために特別なことはしたくない」という心理がうかがえます。なお、昨年度のアンケートと比較すると、防災のために備えているものとして、「ウエットティッシュ・トイレットペーパー」が4.9ポイント、「マスク」が14.8ポイント上昇しています。コロナ禍の今、ウイルス対策用品は、必ず忍ばせておくべきアイテムと考える人が、増えていることがわかりました。

[Q]「フェーズフリー」とは、身のまわりにあるモノやサービスを、日常時
 はもちろん、非常時にも役立てることができるという考え方です。
 「フェーズフリー」は、自分にもできそうだと感じますか。
 (n=1586)



[Q]「フェーズフリー」を実践してみたいと思いますか。
 (n=1586)



「いつも」のくらしがじつはフェーズフリーに！

防災というと、乾パンに代表されるように、ふだんは利用していないものを災害時のために「備える」イメージがあります。フェーズフリーはその逆。電気自動車は停電時の電源に、趣味のベランダ菜園は災害時の食料に、鍋料理に使う卓上コンロは非常時の調理器具にと、ふだん使っているものが非常時にも役立つことが特徴です。「特別なことではなく、日ごろ実践していることが、非常時にも役立つというのがフェーズフリー。がんばらずにできることも、大きな特徴です」(佐藤さん)。

ふだんのくらしのなかにも、フェーズフリーにつながるアイデアはたくさん。

- ・「ブロッコリーは、フライパンに水大さじ3を加えて蒸しゆでにする」(40代・フルタイム)
- ・「家の中を断捨離して足もとに物を置かない」(50代・パート)
- ・「たまに備蓄食料で調理して、家族で試食会をする」(30代・パート)
- ・「いつでも避難できるように、部屋着で眠る」(40代・パート)

「少ない水や油で調理する」方法は、災害時に限られた水や食材で調理するのに役立ちます。また、家をすっきり片づけておくことは、ふだんは高齢者の転倒防止に、非常時にはスムーズな避難を可能にします。フェーズフリーを知らなかった人でも、具体的な例を挙げると、「自分でもできそう」73.4%、「実践してみたい」83.3%と高い関心を寄せていました。

災害は、いつどんなときに起こるかわかりません。「防災＝特別なこと」ではなく、日常生活のなかでできることをコツコツ積み重ねていくことが大切です。いつものくらしで便利なこと、快適なことが、もしものときに自分や家族の身を守るというフェーズフリーの発想は、まさに理にかなった方法。今すぐできる新しい防災として、今後さらに注目を集めていきそうです。

アンケート概要

●調査対象:オレンジページメンバーズ・国内在住の20歳以上の女性(有効回答数1586人)

●調査方法:インターネット調査

●調査期間:2021年6月25日～7月1日

●「オレンジページくらし予報」について

読者モニター「オレンジページメンバーズ」には、さまざまなくらし情報・くらし体験によってはぐくまれた“くらしの目利き”たちが数多く所属しています。そんなメンバーたちの声を集めてく次のくらし>を読み解いていくのが「オレンジページくらし予報」です。WEB上でのアンケート調査、座談会など、ご相談に応じて展開いたします。

●『オレンジページ』について

失敗なくおいしく作れるレシピ情報が支持され、今年創刊35周年を迎えた生活情報誌。30～40代の主婦を中心に幅広い読者層を誇ります。発行部数=283,167部(2020年印刷証明付発行部数)。

この資料に関するお問い合わせ

株式会社オレンジページ

くらしデザイン部

kurashi@orangepage.co.jp Tel. 03-3436-8418